令和8年度 医療技術等国際展開推進事業 成果報告会
2026年10月7日

途上国における内視鏡診療の自立的発展を目指して
～オンライン教育プラットフォームとチーム医療の構築～

九州大学病院 国際医療部
九州大学 病態機能内科学
森山 智彦



当学の医療技術等国際展開推進事業

主事業者として

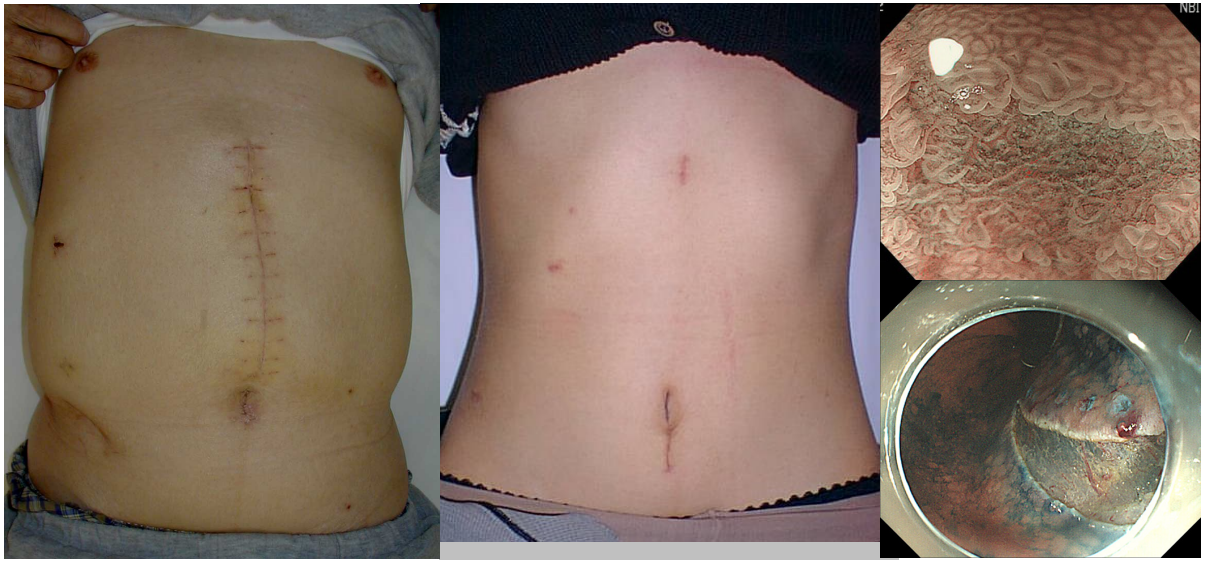
19～21年度	ミャンマーにおける消化器診療の人材育成事業
➡ 22～24年度	モンゴルにおける消化器診療の人材育成事業
25～26年度	フィリピンにおける消化器診療の人材育成事業

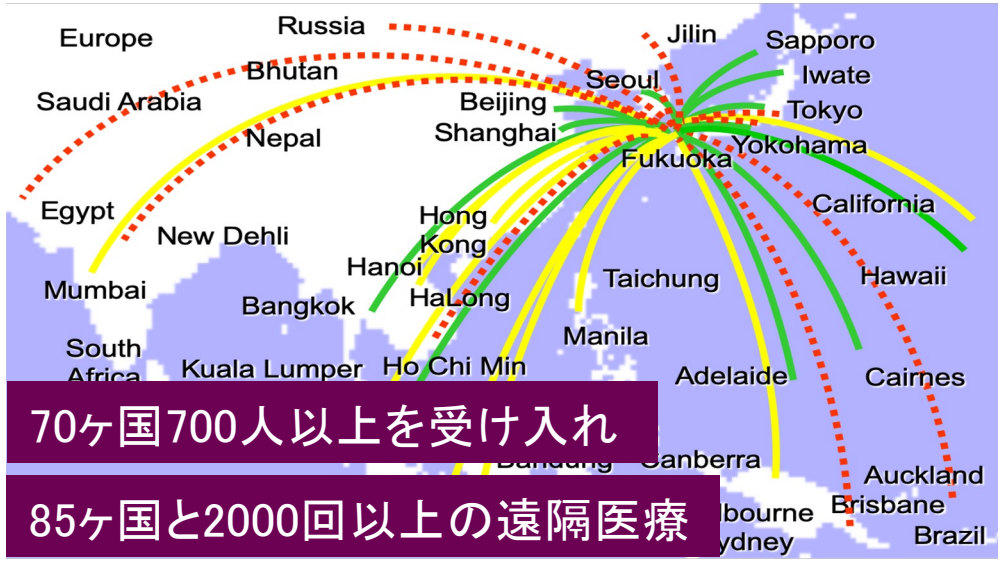
分担者として

23～25年度	ケニアにおける消化器診療の人材育成事業（オリンパス）
23～25年度	ラオスにおける消化器診療の人材育成事業（HIGAN）
25～26年度	モンゴルにおける消化器診療の人材育成事業（外科学会）
23年度	ブータンにおける消化器診療の人材育成事業（大分大学）

九州大学病院の国際活動

2000年代におきた胃癌診断・治療のイノベーションをきっかけとして、国際人材交流事業や国際遠隔医療教育を活性化









海外での指導

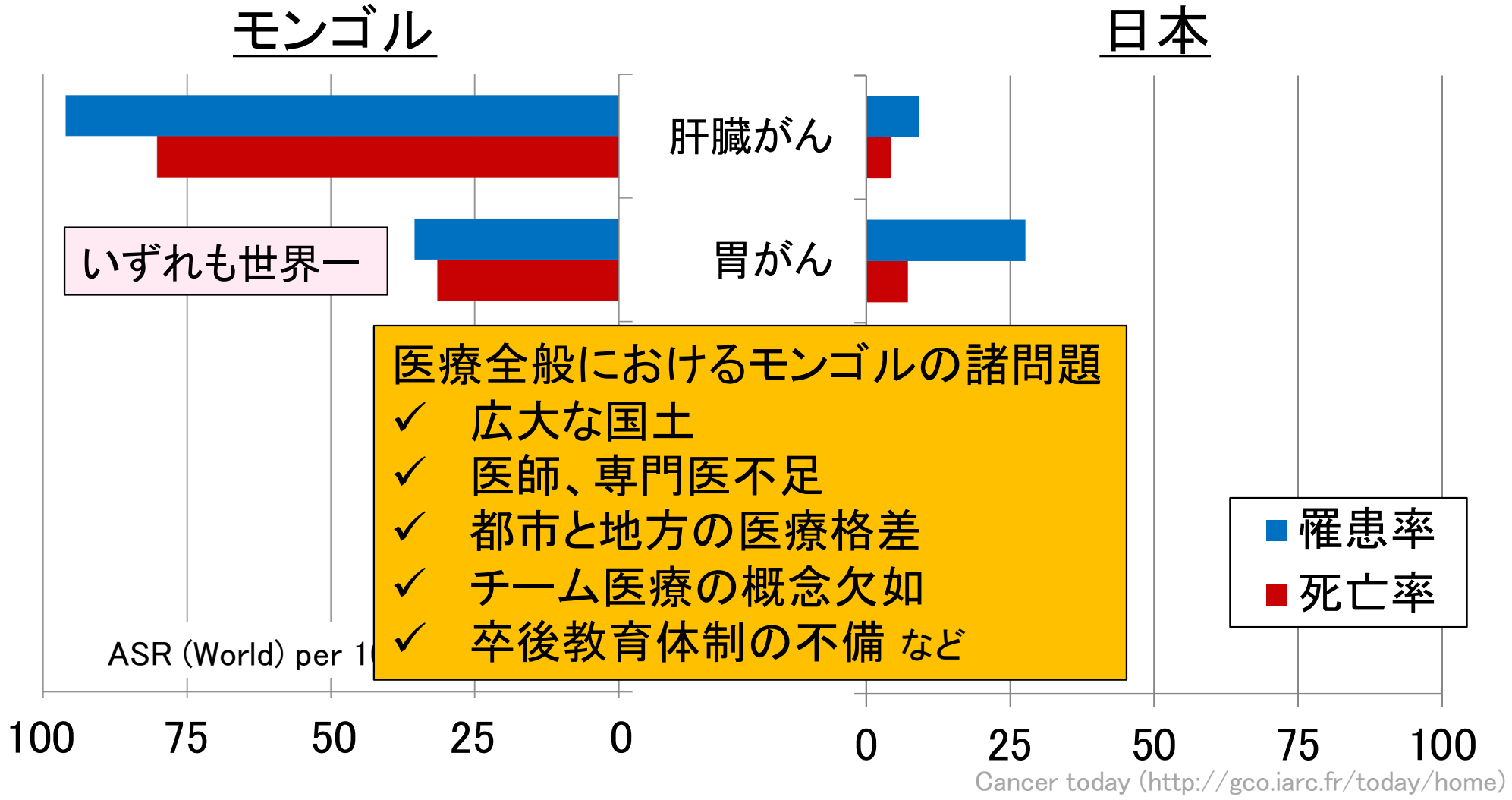


日本への招聘



遠隔医療

主な消化器がんの罹患率と死亡率



モンゴル国立医科大学とモンゴル日本病院を訪問

2019年







- ✓ JICAが設立した病院で、日本製の医療機器が多く導入済み　**→指導のしやすさ**
- ✓ モンゴル内視鏡学会の主要メンバーは同大学に所属　**→他院・他地域への波及**
- ✓ 唯一の国立医大で、学長はモンゴル大統領の特別顧問　**→保険収載など国へのアプローチ**





事業のねらい

- ✓ 内視鏡医は、その診断が正しかったのか病理医からフィードバックされることで成長する
- ✓ 外科、放射線科、腫瘍内科、病理、看護師と連携して意見を出し合うことで、患者にとって低侵襲かつ最大限の効果を発揮する治療を選択できる
- ✓ 機器を正しく使い丁寧にメンテナンスすることが、医療安全や維持コストの削減につながる

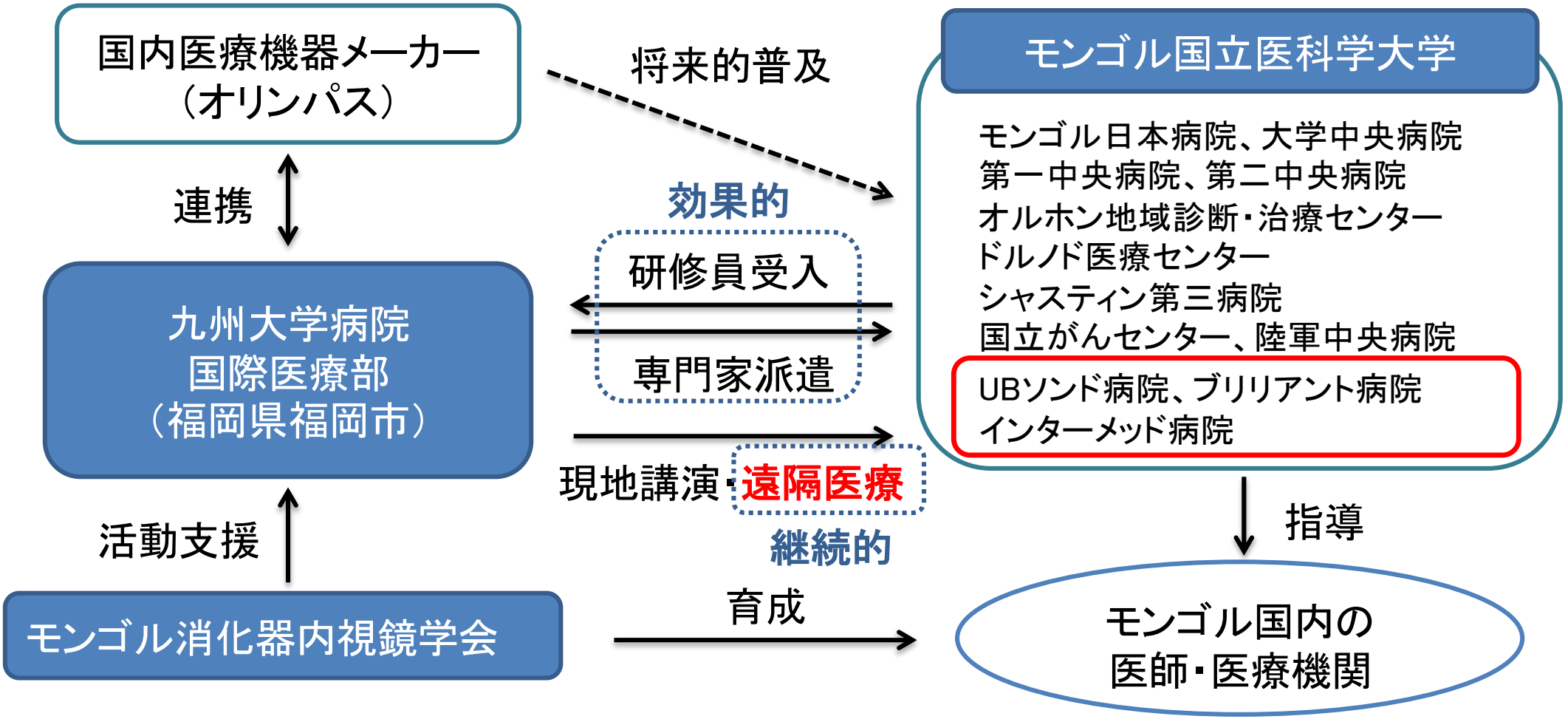
  →**多職種連携**を通じたチーム医療の導入

- ✓ 医学は日進月歩であり、知識のアップデートなど継続的に医学教育へ暴露されることが必要
- ✓ 地域の医療格差削減には、都市と地方にいる医師の知識や経験、技術の格差縮小が必須

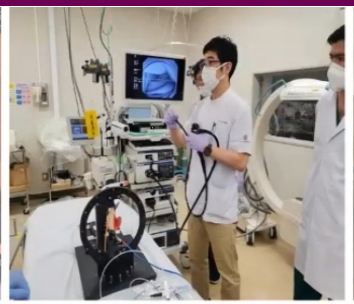
  →**遠隔医療教育**の導入

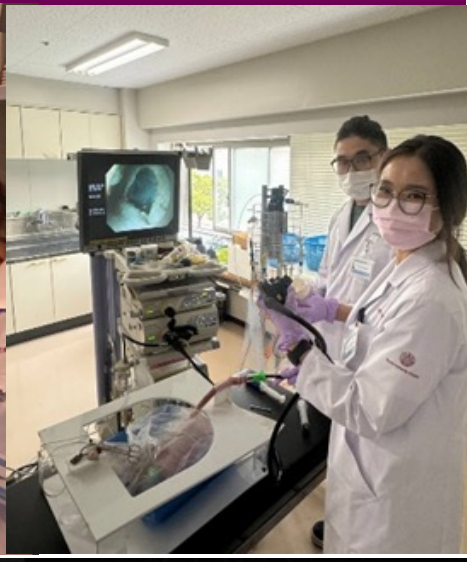
事業の概要

モンゴル国における消化器疾患診療の人材育成とチーム医療の導入

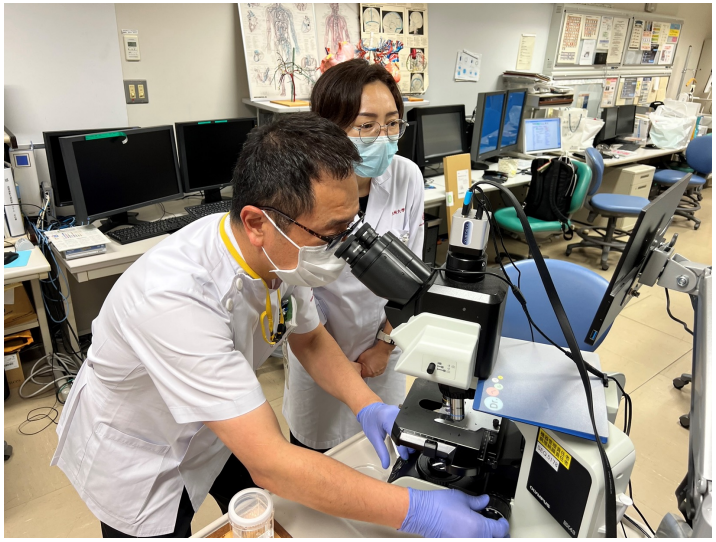
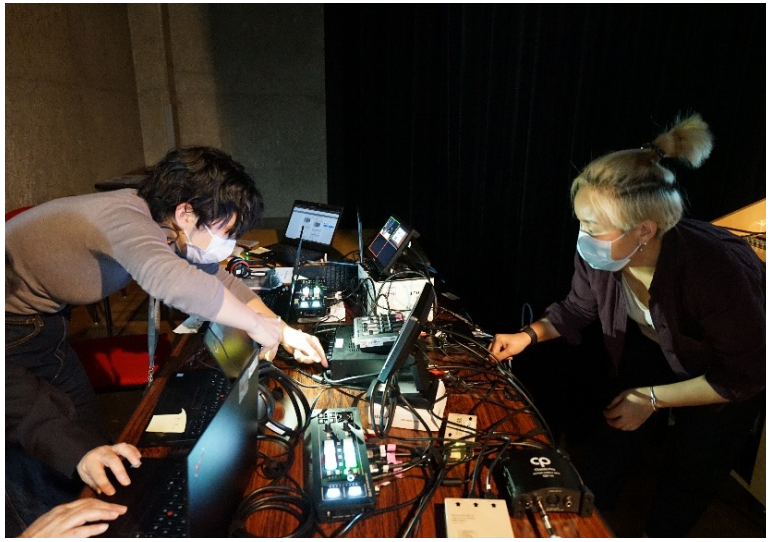


消化器疾患診療に関わる多診療科で本邦研修を実施



研修員の受入

- 内視鏡、外科、放射線科、病理、麻酔科、腫瘍内科、IT技術のスタッフ、計32名を受け入れ、それぞれの専門部署で1ヶ月の研修
- 内視鏡治療のシミュレータ実習や腹腔鏡手術機器による結紮術習得
- 医療機器のメンテナンスや標本作成法についても学習
- 多職種で症例検討を行う**「消化管がん部会」への参加**
- 当院が実施する**国際遠隔医療教育への参加**
- IT技術者はハンズオン研修を通じて**遠隔医療技術の習得**

多診療科によるモンゴルでの実地指導


外科


内視鏡


臨床工学


放射線診断


病理診断


IT技術

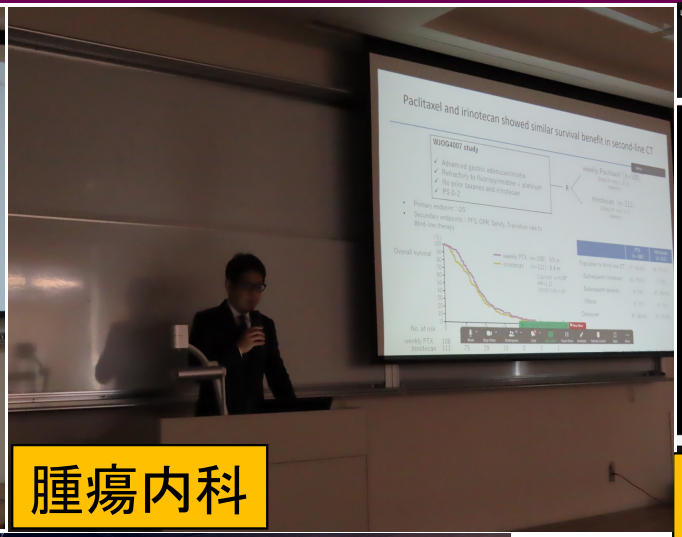
専門家の派遣

- 当院から内視鏡医、外科医、病理医、放射線科医、腫瘍内科医、**臨床工学技師、臨床検査技師、IT技術者**を派遣し、毎年5日間の実地指導
- モンゴルではまだ普及していない腹腔鏡下での胃切除術や膵切除術、腹腔鏡内視鏡合同手術、内視鏡的粘膜下層剥離術などを実施
- **モンゴル医師と多診療科での術前症例検討会**を実施
- 臨床工学技士や病理検査技師による**パラメディカルへの指導**

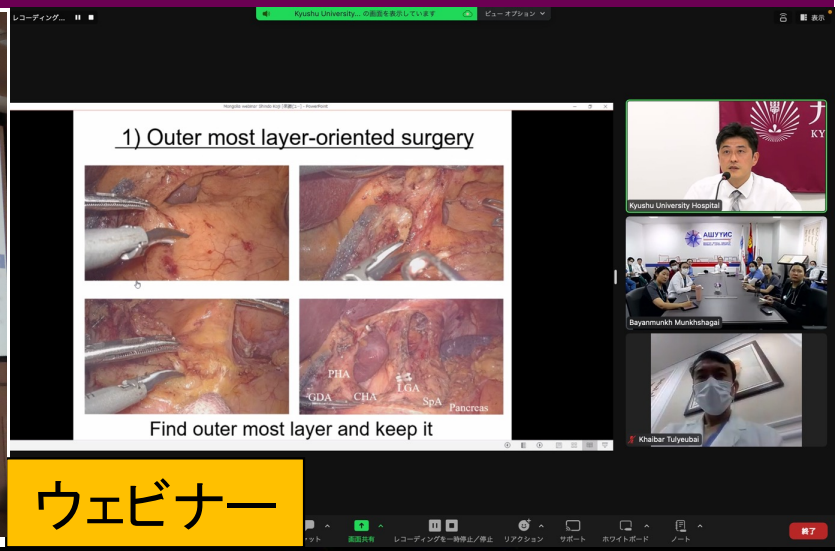
現地講演や遠隔医療教育、学会への参加



膵臓外科



腫瘍内科



ウェビナー



外科



病理



内視鏡ライブ

事業がモンゴルへ与えたインパクト

- モンゴル日本病院が内視鏡的粘膜下層剥離術や腹腔鏡下胃切除術、腹腔鏡内視鏡合同手術を開始
- 研修員がモンゴル版の**胃がん診療ガイドライン**を策定し、モンゴル日本病院での実証運用を開始
- 外科医、消化器内科医、放射線科医、麻酔科医、病理医が一同に介する**「がん部会」を毎週開催**
- **正しい内視鏡洗浄法の導入**と勉強会を自発的に定期開催
- **モンゴル国内で遠隔医療**を自発的に実施
- 日本製内視鏡機器1台が新規導入

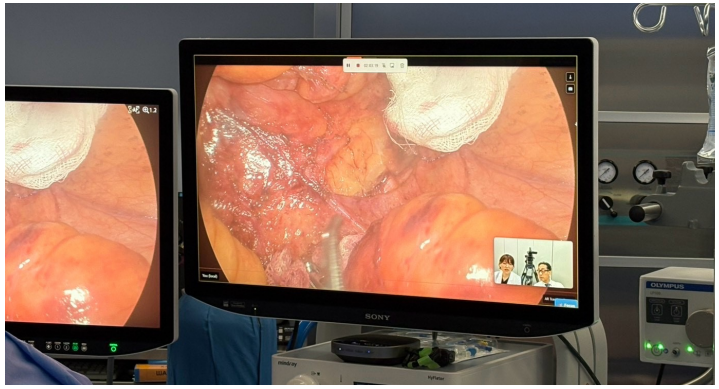


多職種連携と遠隔医療を導入できた要因

- ✓ モンゴルは胃癌の罹患率と死亡率が世界一で、状況を改善したいという医療スタッフの高いモチベーション
- ✓ リーダーシップを発揮できる医師の存在
- ✓ 胃がん内視鏡検診プログラム開始による機会増加
- ✓ 事業実施期間にモンゴル語ができる日本人の臨床工学技士がJICAから派遣
- ✓ 内視鏡科部長、外科部長、病理科副部長が大学の同級生で関係性良好
- ✓ モンゴル日本病院に優秀なIT技師が在籍

その一方で導入できていないこと

- ✓「消化器がん部会」への看護師の参加
  → 「言葉の壁」で事業への積極的な参加が難しかった
- ✓ モンゴル日本病院やモンゴル内視鏡学会が主体となった定期的な遠隔医療教育
  → 遠隔医療を担当する人材や部署の欠如
- ✓ 遠隔での内視鏡技術指導
  → 指導機器の導入・運用コストと指導者の負担


結 語

- ✓ 実地指導と遠隔医療教育を組み合わせることで、効果的かつ継続的な医療教育を実施できた
- ✓ 多職種による研修を通じて、チーム医療、遠隔医療、機器洗浄の重要性についての周知と理解を促すことができた
- ✓ 今後の自立的発展を促すには遠隔医療を活用したサポートが有用だが、それを推進する人材の育成や導入・運用していくためのコストが課題である



モンゴル初となる
腹腔鏡内視鏡合同手術